

『原価計算研究』レフリー制度運用基準

1. 日本原価計算研究学会の学会誌、『原価計算研究』のレフリー（査読者）制度運用基準を制定することの理念は、会員の便宜のために、すぐれた論文を育成・助成することにある。
2. 論文のレフリーは、理事、幹事の中から投稿論文の要旨等を参照し、編集委員会で協議のうえ、編集委員長が選任する。
3. レフリーは次の A, A⁻, B, C の4段階で論文を査読し、修正確認は A, A⁻, C の3段階で評価する。
 - ① A：原稿をそのまま掲載してよい。
 - ② A⁻：修正を義務とする。レフリーが指示する改善・訂正事項は語句など趣旨に影響を与えないものであり、指摘事項が改善・訂正されれば掲載してよい。レフリーによる確認や再査読は基本的に不要であり、レフリーの指摘事項について、編集委員会によって改善・訂正が確認できれば掲載してよい。
 - ③ B：修正を義務とする。レフリーが指示する指摘事項は論文の趣旨に影響を与えるものである。執筆者による改善・修正に基づき再査読を行い、改善・訂正が認められれば掲載してよいが、改善・訂正が認められない場合は掲載すべきでない。
 - ④ C：掲載すべきでない。
上記のうち、A⁻もしくはBの場合は、改善・訂正すべき点を具体的に指摘し、Cの場合は、掲載すべきでないと思う理由を提出するものとする。
4. 査読は3人のレフリーによって実施し（A, A⁻, B, C の4段階で評価）、査読結果を次の通り扱う。
 - ① 査読は、A, A⁻, B, C の4段階で評価する。
 - ② AAA, AAA⁻, AAB, AAC：受理とする。
 - ③ AA⁻A⁻, AA⁻A⁻B, AA⁻A⁻C, A⁻A⁻A⁻, A⁻A⁻A⁻B, A⁻A⁻A⁻C：指摘事項の修正状況を編集委員会で確認のうえ受理とする。
 - ④ ABB, A⁻BB, ABC, A⁻BC, BBB, BBC：執筆者は論文の修正を義務とする。
 - ⑤ ACC, A⁻CC, BCC, CCC：非受理とする。
5. 4-④で執筆者による内容修正を行った場合、修正確認（A, A⁻, C の3段階評価）および修正確認結果を次の通り扱う。
 - ① 修正確認はB評価を行ったレフリーが行い、A, A⁻, C の3段階で評価する。
 - ② 3名のレフリーの評価において、AAA, AAA⁻, AAC：：受理とする。
 - ③ AA⁻A⁻, A⁻A⁻A⁻, AA⁻C, A⁻A⁻C：指摘事項の修正状況を編集委員会で確認のうえ受理とする。
 - ④ ACC, A⁻CC, CCC：非受理とする。
6. 修正が義務となった場合、編集委員会の指定する日時までに修正原稿を提出しなければならない。なお、修正原稿を提出する場合は、修正箇所の一覧表を添付するものとする。
7. 運用基準の改正
本運用基準を改正するときは、編集委員会で改正案を作成し、常任理事会、理事会の承認を得なければならない。

(附記)

本運用基準は、平成22年7月3日より実施する。

(改正) 平成23年9月1日